山寺通信8月号

2025年7月5日は「予言の日」として騒がれていましたが、何も起こらずに過ぎたため、人々の間では終わった話として扱われています。結果的にデマだったと言われていますが、世界の状況を見てみると、大規模な戦争や地域的な衝突が次々と発生しており、経済もまるで制御不能のような混乱が続いています。米国ドルが世界の基軸通貨の地位から徐々に外れていくことも予想され、世界のシステムそのものが大きく組み替えられる時期に突入しているようです。

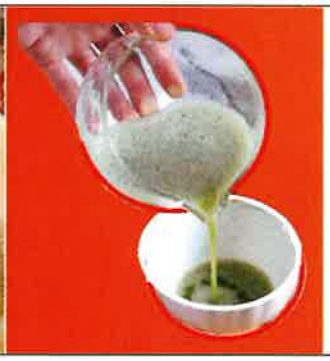
そんな大転換期の中で、抹茶が世界的に流行しているというのは驚くべき現象です。ただ、その味わいも徐々に調整され、より美味しく整えられてきているようです。中国からは、片口抹茶椀や樹脂製の茶筅など、新しい道具が輸出されており、それによって点て方や飲み方も大きく変化しています。

しかし、中国製の抹茶は、味の品質においてはあまり期待できないと思われます。砂糖などで味付けされながら、手軽さを武器に市場へ広がっていく傾向があるでしょう。日本製の茶筅などは絶対量が少ないため、今後は中国製に移行していく可能性があります。

一方で、中国人は器用な人が多いため、茶筅の製法にも様々な工夫を凝らしています。工場の数も増えているため、品質の低い製品が市場に出回ることもあります。新しいメーカーの中には竹をうまく割ることができず、太めの竹を使用している例も見受けられます。また、日本のように茶筅を縦に振って泡立てると穂先がバラバラになってしまう製品も販売されています。

そもそも中国製の茶筅は、韓国人が中国人に製作させ、それを「韓国茶筅」として日本市場に売り込んだのが始まりでした。その後は中国人が杭州で製造を始め、自国の公司が販売を展開。しかし、輸出会社が様々なメーカーの製品を選別なく販売するようになったため、サンプルと実際の商品に品質のばらつきが生じています。

現在日本で通関するための検査会社で検査中　その後船で送られてきます　８月後半に入荷します



M-4 12.8xH6.8ccm

M-5 11xH7.5

m-8 12.4xH7.3cm

CA-1 8.2xH9.2cm

CA-3

CA-2

M-1 11.8xH7.8cm

他にも幾つかの製品仕入れる予定です。価格はドルレートが入荷日によって変わってきますので
特別チラシを作ってお配りします。
現在、中国製の茶筅は、順調に２社から入荷しています。